



## 国際子ども図書館 平成 25 年度子ども読書連携フォーラム ～中高生への読書推進を考える～

日時：平成 26 年 3 月 3 日 13：00～16：00 於 国際子ども図書館ホール

フォーラムでは、第一部で「中高生への読書案内・読書相談サービスを考える」をテーマに、パネリストによる事例発表とディスカッションを行いました。ここではディスカッションの主な内容を紹介いたします。

コーディネーター 堀川照代氏（青山学院女子短期大学教授）

パネリスト 今岡亜樹子氏（広島県立図書館）[配布資料 3 参照](#)  
千田つばさ氏（東京都立柏江高等学校 学校司書）[配布資料 4 参照](#)  
村上恭子氏（東京学芸大学附属世田谷中学校 学校司書）[配布資料 5 参照](#)

### ～中高生への本を手渡し方～

- ✓ 配布資料 5 中にある「共学校で『カラフル』からひろげる」は、『鍛えよう！読むチカラ：学校図書館で育てる 25 の方法』<sup>1</sup>に載っている、村上さんの実践例です。この図について説明していただけますか？（堀川）
- ✓ この図は、この本を作る時に、監修の先生から「子どもに本を手渡す際に司書の頭の中で行われていることを可視化してほしい」と言われて作ったものです。『カラフル』<sup>2</sup>が面白く読めた子に次に読む本を紹介する時、私の頭の中では、その子がどんなタイプの子かを瞬時に判断して、そのタイプの子が好きそうな本を選んでいきます。学校図書館では、一人一人に合わせて紹介する本を変えています。タイプの判断は、この子は『カラフル』の中のどの部分に心惹かれるかを想像して行うことが多いです。（村上）
- ✓ 高校図書館でも『カラフル』の次の本を手渡す場面はあるのですが、その時は、村上さんと同じで「この子は『カラフル』のこの部分が好きだからこの本」と選んだり、生徒と会話をしながら探ったり、3冊くらい渡して1冊を選ばせたりします。会話の途中で違う方向に行くと、結局全然違うタイプの本を借りていくこともあります。発想のきっかけになるのは、やはり生徒との会話や司書との日々の関係だと思えます。この図を見て、「高校だったら、ノンフィクションを入れるかも」と考えました。（千田）
- ✓ 利用者との日々の関係は、学校に属する子どもを相手にする学校図書館と広く利用者がいる公共図書館とは違いますね。県立図書館では、本の紹介時にどんな留意をしていますか？（堀川）
- ✓ 県立図書館なので、地域の人が利用する市町村立図書館とは違うかもしれません。この図を拝見して、こうした図があると公共図書館にとっても利用者への案内がしやすいと思いました。県立図書館では、その人がどんな人であるかまでは普通は分からないので、これまでどんな本を読んできたか、どんな本が好きなのかなどをインタビューして、紹介する本を探ることになります。（今岡）



<sup>1</sup> 桑田てるみ監修。「読むチカラ」プロジェクト編著。「鍛えよう！読むチカラ：学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院, 2012, 143p.

<sup>2</sup> 森絵都作。「カラフル」理論社, 1998, 275p.

## ～中高生との関係作りとニーズの把握～

- ✓ 中学校図書館、高校図書館、公共図書館では、子どもとの関係の作り方に違いはあるでしょうか？（堀川）
- ✓ 高校生は、とりあえず〔図書館員と〕大人として表面上は付き合い合ってくれることが多いですが、それだけでは読みたい本までは教えてくれないので、彼らの要望を引き出す必要があります。ただ、要望を引き出してもそれを無条件に受け入れるのではなく、駄目なものは駄目というように、大人としてのスタンスを示す必要はあると思っています。（千田）
- ✓ 参加者の事前アンケートにも、「中高生のニーズが把握できない」という課題が挙がっていました。村上さんの中学校図書館では、ライトノベルは生徒に推薦させて選んでいるということでしたが、ニーズの把握という面ではいかがですか？（堀川）
- ✓ 「小学校の時は読みたい本がすぐ見つかったのに、中学になったら見つからない」という子がいます。小学生の頃は同じ本を読み聞かせすれば皆で楽しめますが、中学生になって同じ本を読もうという絶対にはずれる子が出てきます。一人一人の違いが表れ始めて、誰とも違う「自分」が確立してくるのが思春期です。十把一絡げに対応できないからこそ、一人一人のニーズがある程度把握できるように、学校図書館に人がいる必要があると思っています。一人一人が「個人」になる時期だからこそ、自分の「個」を認めるだけでなく、自分以外の友達の個、つまり「多様性」を認められるようになってほしい。学校図書館は、それを促す場でありたいと思っています。



だから、中学生が好む本に殺戮シーンや恐怖シーンが多い小説があり、選書に悩みますが、それらを一律置かないと決めてはいません。専任の司書がいる学校図書館なのだから、「なんでこの本が面白いの？」とか「この本は他の子も楽しめる本なの？」と生徒と会話をしながら、個々の本を選ぶことができます。単純な答えのないものに向き合う日々だと思って、〔選書に〕取り組んでいます。（村上）

- ✓ 本を手渡してその本を読んだ後まで関わることでできる学校図書館の素晴らしさを感じますね。公共図書館はどうですか？（堀川）
- ✓ 公共図書館では、「何か面白い本ない？」と、それほど気軽に聞いてもらえません。また、本を紹介しても読んだ後を追えないので、手渡した本が合っていたかも分かりません。なので、こうした学校図書館の情報はすごく役立ちます。公共図書館のニーズ把握は、メッセージボックスで欲しい本を書いてもらったり、棚を観察してどういった本が借りられているかチェックしたり、アンケートを行うといった方法になるのではないのでしょうか。（今岡）

## ～中高生の参加を促すには～

- ✓ 今岡さんのご発表の中で、中高生には「本について話せる場」がないので、図書館は「本について話せる場」を提供するのが大切という指摘がありましたね〔注：配布資料3参照〕。では、どのようにそうした場への参加を誘うか、特に不読者とと呼ばれる子の参加をどう促すかという問題はどうか？（堀川）
- ✓ 不読者層の子に図書館に来てもらうのには、私も日々悩んでいます。この年齢の子は同年代の人

の話はよく聞くので、〔図書館に〕最初に興味を持ってくれる子をどうやって引き込むかがポイントだと思っています。最初にやってくれる子を見つければ、その子を核にして、図書館に関わる子の幅が広がっていきます。あとは、図書館だけでなく、体育祭や文化祭、健康診断などの色々な場面で〔司書が〕生徒と関わることが、意外と効果があると感じています。(千田)

- ✓ うちの学校図書館には、本を読まない子も沢山やってきます。図書館には、囲碁や将棋、漫画やパソコンがありますし、私としても「本を読まなくてもOK」と思っています。〔本を読まない子も〕図書館に来て、横目で本を読んでいる子を見たりしていれば、図書館や本に対する心理的なハードルが下がるだろうと考えています。図書館自体が、本を読まない子にとっても居心地が良い雰囲気を持つことが大切だと思います。(村上)
- ✓ 読み聞かせが嫌いな子はいませんが、自分で読むのが面倒なので本を読まない子はいます。先日、社会科の先生に書いてもらった文章に、“文学が好きでないために本を読まない子を本好きにする最も効果のある教科は、社会科だ”というようなフレーズがありました。課題で読まされた本であっても、その本が深いところまで考えさせる内容〔例：優生保護法の問題〕が書かれていて、子どもがその内容を読み取る力があれば、文学や物語が好きでない子が、それをきっかけに本の面白さに目覚めることがあると思います。(村上)
- ✓ 「図書部！！」〔注：配布資料3参照〕に参加した36人中の3分の1は、学校の先生からの声掛けがあって参加した子でした。〔参加を促すには〕学校に向けて図書館をPRすることが重要なのだと思いました。(今岡)

#### ～最後に一言～

- ✓ 最後に一言、「これやってみて」というお勧めのやり方をお聞きしたいと思います。(堀川)
- ✓ 最近、「学校図書館は自分たち図書委員会が作るのだ」という意識ができてきました。今年、図書委員会の生徒発案でビブリオバトルと読書会をしましたが、企画の最初から関わる核となるメンバーがいて、その子の友達がプログラムに参加したりと輪が広がってきました。企画の時から子どもが関わるのが大切だと思います。(千田)
- ✓ 最近、私は、図書館が授業と関わりを持つことが、子どもたちの読書環境を広げることにつながると考えています。図書館を使った良い授業をしてもらおうと、生徒は公共図書館にも足を運びます。東京学芸大学学校図書館運営専門委員会が作成している「授業に役立つ学校図書館活用データベース」<sup>3</sup>では、図書館を使った授業の事例を見ることができます。先日、広島県立図書館の青少年向けページを拝見していて「中学生・高校生のための仕事・就職案内：テーマ別資料リスト」<sup>4</sup>を見つけて、(学校図書館にとって)とても役に立つリストだと思いました。学校図書館は一人職場が多くやれることも限られているので、こうした情報があると助かります。公共図書館と学校図書館がつながってお互いの持っている情報を共有すれば、中高生の読書推進に効果的だと改めて感じました。(村上)
- ✓ 「図書部！！」に参加した子は、中学生から大学生という異年齢の人たちで、読書をテーマに話げできたことに、とても満足していました。学校とは違う公共図書館という場で読書プログラムをすることで、青少年の読書に広がりが出てくると思います。(今岡)

<sup>3</sup> 「授業に役立つ学校図書館活用データベース」 <http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/>

<sup>4</sup> 広島県立図書館「中学生・高校生のための仕事・就職案内：テーマ別資料リスト」 <http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/ct/other000001900/sigoto-list.pdf>